

令和6年12月10日(火)18:30~19:45

朝霞地区在宅緩和ケア推進ネットワーク 第2回症例検討会 アンケート集計結果 アンケート集計期間:12月10日~12月20日

【事例提供者】TMGあさか医療センター 緩和ケアセンター長・朝霞地区在宅緩和ケア推進ネットワーク議長 金井 良晃先生

【テーマ】「高齢男性のキーパーソンによる看取りについて考える」~グループワークで話し合おう~

【参加者数】86名

≪内訳≫

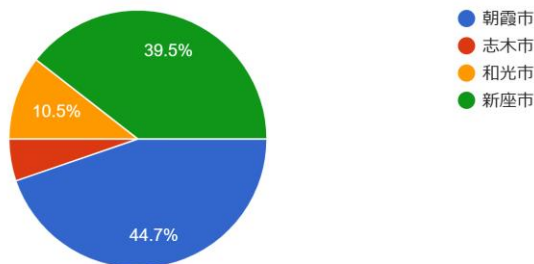
■当日参加者数・・・ネットワーク会員(34)/一般(28)/合計(62)

■アーカイブ参加者数・・・ネットワーク会員(20)/一般(4)/合計(24)

■アンケート回答者数:38名 44%

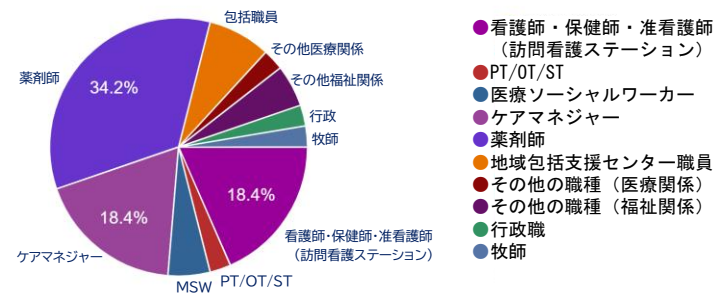
1. 所属の所在地を教えてください。

38件の回答



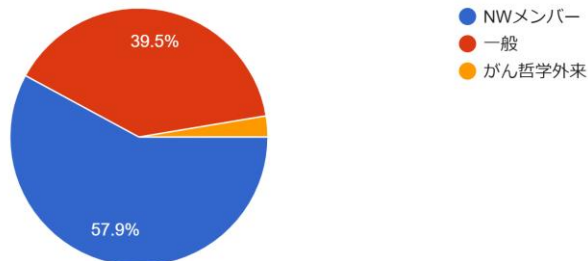
2. 職種を教えてください。

38件の回答



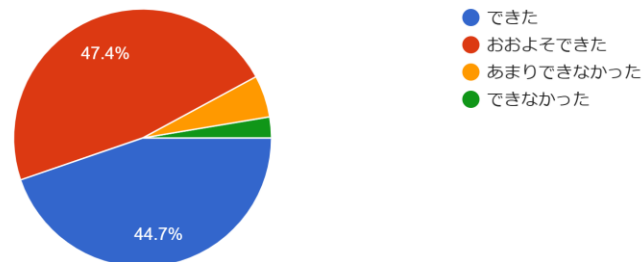
3. 参加の方法を教えてください。

38件の回答



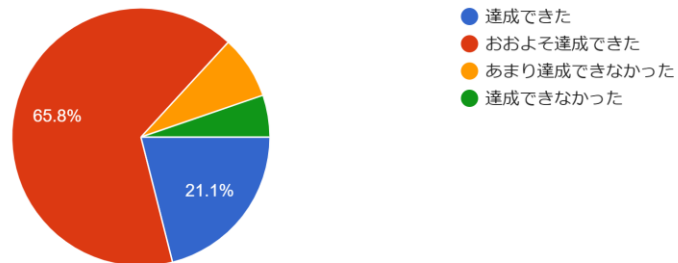
4. グループワークで有効な話し合いができましたか。

38件の回答



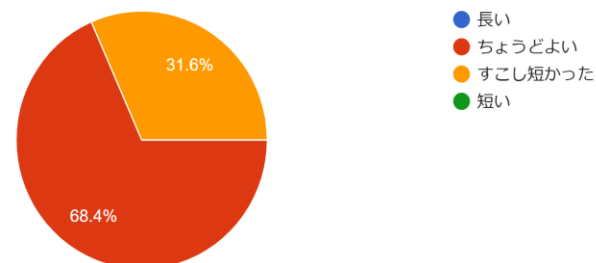
## 5.グループワークの目的【主体的（自分だった...）に考え、経験を持ち寄ることができる】について

38件の回答



## 6.グループワークの時間について

38件の回答



## 7. 症例検討会に参加した感想を教えてください。38件の回答

- ・勉強になりました。
- ・もう少し意見を聞きたかった
- ・他職種の方と直接お話をするよい機会となりました。ありがとうございました。
- ・職種によってアプローチなど異なり意見を聞かせてもらって大変勉強になりました。
- ・改めて対応が難しいケースだったのだと感じました
- ・多くの方の意見を聞くことができとても良かった
- ・今回外来がまだ終わっておらず 症例検討会に途中から参加しました。まとめてくださっているファシリテーターの方のおかげで 途中から参加したにもかかわらず 上手く事例の共有をこちらからも行うことができました。ありがとうございます。
- ・今回の症例で、家族とのコミュニケーションの大切さ、また ご家族の理解度に合わせた看護介入が大事だと感じました。
- ・訪問看護時その場で父親が、何も出来なかったとしても、私達医療者は父親へ介護疲労への労い、主介護者の役割をたたえる声掛けやご家族とのやり取りが重要だと学びました。訪問時利用者とともに介護者、家族の状況も在宅で継続していくためにみていきますが、今後単身がキーパーソンとなるケースが多いと思われる中、相談や心情を伝えてられる存在としてなりえるよう、日頃から利用者、ご家族を大切に思い丁寧な言葉、態度、手技でケアをしていきたいと思いました。そしてグリーフケア訪問時にはご家族へのお気持ちを傾聴していくことの大切さをより感じました。
- ・過去経験から倫理的ジレンマや解消しきれなかったことを思い出し、改めて考えられたこと、同じような経験に悩む関係者との思い共有共感できました。
- ・その利用者に対して、それぞれの職種の方々が得る情報が、職種によって違う場合があり、これをうまく共有できると、もっとその利用者や家族が抱えている、本当の不安や不満が理解でき、少しでも寄り添ったケアができると思いました。
- ・お父さんの存在意義にフォーカスする方法もあったとの先生の意見が印象的でした。家族の死を受け入れられないお父さんの事例は核家族化により、増えていくのではと感じました。いろいろな職業の方の意見を聞いて勉強になりました。

・困難ケースに対してしょうがないで諦めるのではなく、振り返る事が大事だと知る事が出来ました。振り返りの中で必ず参考になる部分があると思うので、次の支援でより質の高い支援を提供出来る様にしていきたいと思います。ただ慣れないスタッフの場合、ご家族様からの暴言で離職を考えるスタッフもいると思います。支援者同士連携を密に図りながら、スタッフを守る事も必要だと思いました。

・前回よりも更に深く事例の考察ができ良かった。

・市を跨ぎ、色々な職種の方の意見が聞けて良かったです。

・他職種の方との意見交換が良かった

・第二回より参加させて頂き、始めは不安でしたがグループの金井先生が上手く誘導して下さりとても話しやすかったと感じました。一つの事例を振り返りという形で話し合う、という検討会はとても参考になりました。誰も「あの時あすれば...」という気持ちは少なくともあるはずで、それを共有する事は介入が終了してしまうとあまり無いかもしれません。「あの時...」の共有こそ今後の業務に活かせると思いました。

・他職種の方の様々な意見が聞けて勉強になりました。もっと医療的なケアなどの話し合いがメインなのかと思いましたが、看取りの場で1番必要なのはどう寄り添っていくかということ。それであればどの職種であっても少しずつ関わっていけると思いました。

・初めて参加してあまり経験したことのない事例ではあるものの、今後自分にも起こりうるものでいろいろ考えさせられた

・有意義な意見交換ができた

・グループワークでは、個々に思っていることを自由に発言できて良かった。1回目より様々な意見が聞けて良かった。

・医療職的な視点の話が大部分となるため、ケアマネジャーとしては少し蚊帳の外にいるような感覚になってしまうところも...。医療関係者と対象者本人、家族との間に入ることが多いケアマネジャーに病的悲嘆や怒りの感情を向けられた場合、どう考えどのような立ち位置でどう対処していけばいいのか...この時間だけでは頭の中が整理できませんでした。でも、考える良いきっかけとなったので、自分の今までのケースを振り返って考えてみたいと思いました。貴重な機会をいただきありがとうございました。

・ワークの時間が短く、大変でした。

・支援者の方々がとても辛い、しんどい思いをされた事例だったのだと思いますが、この場で共有していただき、考える機会を頂いたことに感謝いたします。私も支援の渦中にいるときは、課題にばかり目を向けてしまい、ご本人や周りのご家族の想いやお互いの気持ちを伝えあうことなどをおろそかにしてしまうことがあるな...と振り返りました。その方々が生きてこられた歴史やそれぞれの想いを教えていただきながら、ご本人ご家族を中心に関わっていこうと改めて感じました。ありがとうございました。

・ファシリテーター含めて3人だったので、話し合いがさみしかった。

・とても良かったです。時間が少し短い気がしてます。

・このような困難事例に対して、多職種で意見交換し合える機会はありませんでした。各々の立場から発言し、問題が起こるポイントがあること。今回であれば、関与していた段階で父親の介護力や認識、そして何らかの違和感を察知して、対応をしていく等。また、関与する側の心のケアも必要なのではないか？その為にもこのような検討会の場で意見交換できることは、とても意義がある等、グループで話し合う事ができました。

・非常に難しいケースでした。多職種で様々な情報を共有することで少しでもいい方向に進めばよいと思いました。

・訪問経験がないので、意見は言えなかったが、皆さんのお考えが聴けた。

・実際あったことで、自分だったらどうすれば良かったのかと考える機会になったのは良かったです。

・他の方の意見を聞くことで自分の今後の検討材料となった。

- ・第1回はアーカイブ視聴となってしまったこともあり、今回実際にグループワークに参加して他の参加者の方々とお話できたのはより深い学びに繋がったと思う。
- ・私ひとりでは到底答えが見つからないような症例でしたが、別の職種の方と話して、一生懸命考える機会を持つこと自体が大切なんだろうなと思いました。たくさんの患者様を看取ってきた先生や看護師の皆さんが、振り返り考える場面に立ち会えただけでも自身の今後の意欲につながりました。現在もお看取りのケースを担当していますが、本人や家族の今の気持ちにどこまで寄り添えているのか、今までの関わりを振り返っておこうと思います。
- ・グループワークを楽しみにしていましたが、参加者が3人で発言すくなく他職種の意見が効けなかったのが残念です。
- ・現場で実際に起こっている症例で、今後、自分にも起こりうる課題であるためとても勉強になった。
- ・自分がその立場だったら、と具体的に考えることができました。
- ・第1回の症例を再度取り上げて下さったことが良かったです。前回の症例を聞いただけでは不全感（特に自己不全感）や不安、ご家族らに対する恐れが残ったまま放置されてしまった感がありましたが、それらの課題をある程度解消することができたからです。グループワークで今回の症例で直接対応に当たった方からご家族の様子や、その後の経過などを具体的に教えて頂きました。それによってご家族・ご遺族と関わる上で抱いていた漠然とした不安や恐れが解消されたということです。グループワークはその他の点でも有益だと思いました。共に問題について考えることにより、参加意識・当事者意識が増し、他の参加者と知り合うことができ、今後の連携のための下地づくりができるのではないかと思ったからです。症例のようなケースでは、私たちは患者さんご本人よりご家族と関ることが多くなると考えられるので、ご家族とのやり取りなどを具体的に知ることも有益だと思いました。医療・介護従事者の方々に気軽にがん哲学外来カフェに来て頂き様子を知ってみたいとも思いました。
- ・困難な症例を掘り下げていく事はとても大事だと感じました。色々なご意見の中で今後の支援に繋げていけたらと思いました。

## 8. 症例検討会の運営に関してご意見やご要望がありましたら教えてください。38 件の回答

- ・TMGグループだけではなく、診療所やクリニックからの検討会もあるといいなと思います
- ・参加者メンバーを知りたい
- ・円滑に進行をしていただき、ありがとうございます。また、参加できないときでもアーカイブ配信をしていただけるのでありがたく思っています。
- ・話し合いに夢中になりタイムキーパーが上手いかず、意見の取りまとめの時間が取れなかった。全体チャットなどで残り時間を通知するなど時間コントロール出来るようになると良いですね
- ・今回ファシリを入れて3人グループになってしまいました。
- ・できれば時間帯を19時30～にしてほしいです。
- ・症例検討会に参加させて頂きありがとうございました
- ・どうも、ありがとうございました。
- ・お疲れ様でした。ありがとうございました。
- ・普段、他の事業者の方々と、同じ悩みを共有し、話し合いができる場がないので、とても有意義で元気を頂けます。

- ・アーカイブでの申し込み方法が分かりにくかったです。
- ・在宅で看取る事の大変さを少しだけ知ることが出来ました。今回の事例を提供して下さった事に感謝しております。
- ・グループワークを取り入れる場合は、今後もスプレッドシートを活用したすると大変効率がよいと思いました。
- ・定期的に参加頂きたいです。ありがとうございました。
- ・運営が、スムーズで非常に良かった
- ・第二回からの参加でしたが、良く内容が分かる検討会でした。
- ・実際に在宅に関われていないので、様々な症例を聞きたいです。
- ・とても円滑な進行で良かったと思います
- ・引き続き研修をお願いします
- ・グループワークは良い。
- ・ご尽力いただきありがとうございます。
- ・様々な症例を今回のように掘り下げていただけると、いいと思います
- ・事例を理解する時間がもう少しあると良かったです
- ・参加者の種別や地域に偏りがあるので、幅広く参加者が増えると良いかと思いました
- ・ZOOMだとなかなかお互いの気持ちや素性が分かりにくい所もあり、患者さんを知る上でコメディカルとの対面での話し合いができると良い気がしました。
- ・開催時間がもう少し遅い時間。もしくは土日ですと保険薬局薬剤師も参加しやすいかと思います。
- ・画面共有の資料があとで見返すことができないので事前に頂きたい。グループが医療関係者がいなかったので(欠席だったかも)できれば医療介護がまんべんなくグループにいるとよかったです。
- ・あとから配信を引き続きお願いします。
- ・自分の経験不足もありますが、グループワークで人数が3人と少なかったため、もう少し人数がいればもっと色々な意見が伺えたかもしれないと思いました。
- ・今後も症例共有・検討をお願いいたします。
- ・とても考えさせられる内容で、レベルが高いとも感じているが、それが自身の学びになっているのでこれからも参加させていただきたい。
- ・グループワークは緊張しましたが、意見交換ができてよかったです。
- ・素晴らしい検討会を有難うございました。準備も周到で、本当に素晴らしかったです。
- ・ありがとうございました。
- ・私としてはグループワークがあつて良かったと思いました。
- ・様々なご意見や知らなかったがんカフェの存在を詳しく聞くことが出来てよかったですと思いますありがとうございました

9. 今後、症例検討会で今後取り上げて欲しいテーマを教えてください。

38 件の回答

- ・各職種ごとの関わり方について聞けたら勉強になるかと思いました。
- ・acp支援
- ・うまくいった事例
- ・緩和ケアを受ける中で、実際にエンディングノートを書いていただいた事例等
- ・実際の事例がいいです
- ・独居や身寄りのない方の在宅緩和ケアについて
- ・うまくいった事例もお願いします
- ・それぞれの職種における症例検討会もよいかと思います。
- ・ALS
- ・実際の現場での困りごとなど
- ・家族が非協力的な事例
- ・今回のようなテーマもすぐ勉強になります。
- ・今回のケースとは逆でうまく行ったケースなど違った視点のケース
- ・小児在宅を行ったことがないため事例があったら共有していただけるとありがたいです
- ・ご本人様、ご家族様の意向が全く違う場合でも、上手くいった対応方法を教えて欲しい
- ・看取りまで家で過ごされるために必要な支援について 実際は看取り近くなると、病院や施設に入ってしまうことが多いように感じています
- ・難病患者様の多職種の関わり、症状の経過とともにそれぞれ専門職がどのようにかかわっていったのか経過が分かるものなどあれば学びたいです。
- ・終末期せん妄に対して、各職種で対応に苦労したこと。工夫したこと。家族対応も含めて。癌難治性疼痛に対する薬剤選択に関して、奏功した症例。
- ・成功事例や支援者のケア(今回のようなケースをどのように消化したのかなど)などについても聞いてみたい。
- ・どんな症例も今の私には大変勉強になりますが、肺炎や心疾患の方で、在宅で緩和治療を受けている方のお話もお聞き出来たらうれしいです

- ・この続き
- ・かかわる医療、介護者の精神的ケアについて
- ・がん末期患者の退院前カンファレンスについて
- ・意思疎通の困難な疾患
- ・グリーフケア 実態と多職種どこまでしているか。
- ・訪問医療の危機管理について
- ・独居の難病利用者支援について
- ・緩和ケアで必要な患者との接し方
- ・MCS等情報共有ツールの活用例
- ・緩和ケア科に繋がらない、ケースのターミナル患者
- ・認知症の方の緩和ケアについて